

第1回「花粉の少ない森づくり運動」推進委員会を 設置・開催しました。

東京都は、本年4月に「花粉の少ない森づくり運動」を開始し、募金活動や多摩産材の利用促進などを展開してきましたが、活動のさらなる推進を目指し、「花粉の少ない森づくり運動」推進委員会を立ち上げることとし、9月11日、その初会合を都庁第一本庁舎会議室において開きました。



「花粉の少ない森づくり運動」推進委員会の様子

「花粉の少ない森づくり運動」推進委員会の委員は、東京都森林組合連合会、東京都商工会連合会、東京都医師会、東京都市長会、東京都町村会等の様々な団体の代表や、学識経験者など25名で構成されています。

この日は、会長に養老孟司東京大学名誉教授が、副会長には目澤朗憲東京都医師会理事、作家のC. W. ニコル氏と村山貢司気象予報士の3名が選任されました。

委員会では、東京都の花粉症対策について、多摩のスギ花粉を10年間で約2割削減することなどを説明した後、新たな運動メニューとして、「森づくり支援倶楽部」と「企業の森」の制度について提示しました。



推進委員会の会長、副会長～左からニコル氏、養老氏、目澤氏、村山氏

意見交換では、各委員がそれぞれの立場で意見を表明され、花粉症対策としての間伐や多摩産材の利用促進等にとどまらず、より広い意味での豊かな森づくりといった視点で、都市政策の一環として林業を、東京の森を、首都圏の森をどうすべきかといった意見が述べられました。